



優秀賞

わたしを育ててくれたお米

潟上市立東湖小学校 五年 丸谷汐音

わたしは、毎日お米を食べて生活しています。そのお米は、わたしのおじいさんが心をこめて育てたものです。毎年、「今年もおいしくできたから持ってけ。」

そうやって、一年分のお米を届けてくれます。そのおかげで、安心できるおいしいお米を食べることができます。だから、たくさん食べて、わたしの体は、とても丈夫になりました。

そのお米は、どんなおかずにも合うので、バランスよく食べることがができます。しかも、おかゆやおにぎりのように変化して、病気の時や、みんなで楽しく野外で食べる時でも、わたしたちを楽しませてくれます。やさしいおじいさんの思いがつまっているので、病気が早く治ったり、みんなで楽しく食べたりすることができます。

でも、日本では最近、米が余ったり、残飯が多くなったりしていると聞きました。どうしてこんなことが起こっているのか、考えてみました。

まず、生産者への感謝の気持ちがうすれてきていると思います。食事の前の「いただきます」や、食後の「ごちそうさま」は、食べ物への感謝の気持ちを表していると聞きました。様々な食べ物の命をいただきます。それだけでなく、生産してくれた人への感

謝の気持ちも表していると思います。やさしいおじいさんの、わたしたち家族に対する思いも「いただく」と思いました。そのことを考えると、いつも食べ慣れているお米が少しあまく感じられました。

また、そのお米に合うおかずをつくってくれるお母さんに「ごちそうさま」を言うことで、感謝の気持ちを表すことができます。そして、おじいさんがおいしいお米を作ってくれたお米に対して「ごちそうさま」と言えると思います。

しかし、今の日本では、残飯が増え、捨ててしまうことが多くなっています。わたしの家では、残飯を減らすことを目標にしてがんばっています。でも、わたし一人で全国の残飯をゼロにすることは不可能で、世界中の人が、一人でも多く残飯を減らす努力を続けていけたらきっと、今言われている食料問題も解決すると思います。

最後に、食べ物に感謝して食べることで、生産した人の思いを感じるのですが、今必要だと考えます。それは、とても簡単なことだと思います。だから、わたしは、毎日の食事の時に、「いただきます」と「ごちそうさま」を進んで気持ちを込めて言うことをがんばりたいと思います。

わたしは、おいしいお米が大好きです。それと同じくらいやさしいおじいさんも大好きです。これからも、感謝の気持ちを忘れずに、たくさん食べて、丈夫な体を作っていきたいと思っています。そして、おじいさんにも感謝の気持ちを伝えていきたいと思っています。